16.「愛・地球博」における環境配慮について

財団法人 2005 年日本国際博覧会協会
会場整備本部環境グループ　中山里美

１．2005 年日本国際博覧会について

2005 年日本国際博覧会（愛称：愛・地球博）は「自然の叡智（Nature’s Wisdom）」をテーマに、2005 年 3 月 25 日～9 月 25 日の 185 日間、名古屋東部丘陵（長久手町・豊田市、瀬戸市）において開催される。「愛・地球博」では「自然の叡智」を具体的に展開する一つの柱として「循環型社会」を掲げ、環境やエネルギーといった地球的課題について、その解決に貢献する国際的な文化行事と位置づけている。

２．「愛・地球博」における環境影響評価

「愛・地球博」においては、「2005 年日本国際博覧会環境影響評価要領」（平成 10 年 3 月通商産業省通達）に基づき、環境影響評価を実施してきた。実施に当っては、環境影響評価項目の選定段階と報告書案の検討段階において住民意見等を聴取し、それを評価書に反映させるという環境影響評価法の精神を先取りした形を取っている。平成 14 年 6 月に環境影響評価書を公表した後は、評価書作成時に計画熟度が低く、十分な予測・評価を行うことができなかった項目について、追跡調査として予測・評価を実施している。

３．環境課題への積極的な取組

「愛・地球博」においては、会場計画をはじめ、会場運営、観客輸送等の各方面において環境への配慮を行うとともに、様々な活動や事業を通じ、地球規模で環境課題に対する解決の方向性を発信する。

○ 環境影響評価書に示した保全措置の実施

現状の地形や既存の建物を活用する、注目すべき種がまとまって分布する区域や森林域を出来るだけ回避するなど、自然環境に配慮した会場計画とするとともに、会場整備においては樹木の会場内移植や支障木のうち中・低木の配布を行うなど、会場整備中・開催時・会期終了後の各段階において、環境保全措置を実施し、環境負荷の低減に努めている。

○ 循環型社会のための先進的技術の導入

自然エネルギー、新エネルギー、リサイクル技術等循環型社会の構築に不可欠な先進的技術の導入を目指す。たとえば、脱石油社会の切り札として期待されている生分解性プラスチック製品を会場内で積極的に導入していく計画である。

○ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）を導入した会場整備および会場運営の推進

会場整備においては、組立・解体・再使用が容易なモジュール形式の出展パビリオンを採用する。また会場運営においては、会場内のごみの分別回収を徹底するなど、3R に配慮した各種の取組を進める。

○ 環境負荷の少ない交通手段の利用促進

愛知環状鉄道の増強や沿線環境への負荷が少ない東部丘陵線の活用を図り、鉄道系の公共交通機関の積極的な使用を促進する。会場内輸送については、IMTS（最先端技術を用いた中量輸送システム）などの低公害型の移動手段を提供する。さらに、ITS（高度道路交通システム）を活用したきめ細かい情報提供による渋滞緩和を図る。これらにより、環境影響の低減と CO2 の削減に努める。

○ 展示や催事を通じた楽しみながら学ぶ機会の提供

地球環境問題等について、楽しみながら学び・考える機会を提供する。例えば、会場の自然を素材にして、インタープリターを通じ、参加者が自ら体験し、気づいたこと・感じたことから学びを深め、次の行動へ活かされるような「参加・体験型の環境教育プログラム」を提供する予定である。